

めざす子ども像

幼小中・地域の確かなつながりの中で自ら考え未来を切り拓く子ども

- ・課題解決に自ら取り組む
- ・規範意識を身につけ人権感覚を持つ
- ・未来を切り開く力を身につける
- ・地域に貢献する

取組目標

協議会と学校の連絡を密にし地域に発信していく取組をしながら、地域の方々と子どもたちが一緒に参画できる場の提供と企画をする。

今年度の取組紹介

今年度も中学生対象ですが放課後学習を取り組みました。英会話（イングリッシュカフェ）は当初から取り組んでいますが、ここ3年は、英会話以外に英語・数学・国語の3教科にも力を入れ取り組んでいます。講師は、地域の方をお願いして数学・国語は毎週1回、英語は隔週ですが週2回開催、講師も複数体制になってきております。部活動や塾に通う子も多く出席数は、ばらついていますが、生徒と地域の方との交流は年々深まり、今では教えている教科以外のテストの点数をも報告にくるくらい打ち解け会っています。その子が苦手とする個所を中心に学習することで、自信につながり、挑戦してくれることにつながればと願っています。



また、地域の方も、熱心に力を入れてくださり、「回数を増やしたら」「あの子生き生きしてきたな」「話しかけてくれるようになった」とお声をかけていただけようになりました。

今年度のまとめ

放課後活動も少しずつ定着してきたと考えられます。地域協議会が何をしているのかは、子どもたちとのかかわりから分かっていたできるようになってきました。

が「学校の中に足を運んでいただく」ということにはまだ一部の方でしかなくつながっていないように思われます。子ども達は、挨拶も、お礼も、声掛けもすすんで掛けてくれます。地域の皆さんにも肌で感じていただけるよう、普段の学校の様子、先生方のお顔をも、知っていただきたいと思います。

来年度に向けて

「誰かがしてくれる」ではなく「私もしてみよう」と思える活動であり、地域でありたいと思います。

めざす子ども像

幼小中・地域の確かなつながりの中で

自ら考え、未来を切り拓く子ども

取組目標

地域を愛し、地域に誇りを持ち、自ら学び、考え、判断し
手応えのある夢を持ち、たくましく生きる子どもの育成

【今年度の取組紹介】

・授業において「繋がり合い、学び合う集団」を育成するため、計画的に校内授業研究会を実施し改善に努めました。また、広く地域や保護者にも公開し、理解と協力を得ました。



・未来を担い自立できる生徒の育成を目指し、本年度も生徒自ら考え取り組む事業を行いました。具体的な内容として、リーダー育成のため生徒会が中心になって行うリーダー研修会、クリーン作戦や苗植えなどを実施しました。特に、プロジェクト「ひまわり」では、生徒会・保護者・地域が一体となって、阪神淡路大地震後の環境から育った「はるかのひまわり」を育て、採取した種を、校区だけに止まらず、広く地域に配布しました。1学期にシンガ

ーソングライターの堀内佳さんをお招きして行った人権講演会で「挑戦する心」「幸せを感じる心」「自尊感情」などについて考えるよい機会になりました。

・キャリア教育の一つとしての職場体験学習の事業所開拓や事業所の休業日における環境整備事業（花壇の整備）に協力を得て取り組みました。

・日常的な学校生活における支援の充実として、職員会議中の部活動見回り隊や図書館ボランティアによる昼食時の図書館開放や整理等にも取り組んでいただきました。また、一昨年度より図書室を地域にも開放し多くの方に来校していただきました。

・学力向上プロジェクトとして昨年度国語、数学、英語の3教科で月、水の放課後、土曜日の午前中に地域在住の指導者を招き、基本でつまずく子供たちに学習の場所を提供し基礎学力の向上に努めました。



今年度のまとめ

・今年度もコーディネーターや多くのボランティアの方々の支援を受け、一つひとつの取り組みが計画的に進められました。また、一層の工夫と改善を加えていただきより充実したものになりました。特に学力向上プロジェクトも軌道にのり、少数ではありますが生徒にも定着してきました。

・広報紙の発行をはじめ、ホームページの充実を図ることで、これまで以上に協議会の取り組みの啓発が進みました。

来年度に向けて

・来年度は、これまでの取り組みを継続しながら、昨年度動き出した「学力向上プロジェクト」にさらなる改善を加え地域と連携して取り組む予定です。地域の方の講師を探すことが困難ですが、コーディネーターを中心に進めていきます。

・「ホタルフェスタ」など校区の幼小中が連携して取り組める事業を模索し実行することや、地域の「夏祭り」等を通して小中一貫教育の一役を担っていきます。

めざす子ども像

幼・小・中・地域の確かなつながりの中で自ら考え、未来を切り拓く子ども

取組目標

地域で子どもをはぐくみ子どもで地域がつながる

今年度の取組紹介

昨年度、本校キャリア教育の取組と関連付けて、自ら希望したボランティアの子どもたちが「鶴舞フラワー」という会社をつくり、地域の方が育てられた花の苗を学期に1回販売するという活動を行いました。今年度は、昨年の活動をさらに継承・発展させ、全校の子ども達が、地域の方と共に制作した作品（藍製品・花製品等）を広告作成・掲示も行いながら販売（保護者参観時）する活動を行っています。これらの活動は異学年の児童で構成した縦割りグループで、上級生がリーダーシップを発揮し、相談・協力もしながら、力を合わせて行うことが出来ました。



今年度も、防災教育の一環として地域の方に講演・ご指導いただき、地域の方と触れ合い、つながりながら「守られる側から守る側への気づき」を体感し「今、自分たちが安心して毎日の生活を安全に送ることが出来ていること」に感謝することが出来ました。

また、昨年「ゆうゆう学級」の仲間の活動をもとに全校のみんなで作詞し歌った「君のかわりはだれもない」と「僕らの夢は無限大」の歌作りの取り組みは、今年も継承され、自分達が暮らす地域の方に感謝の気持ちを伝える歌の製作へと発展しました。完成した歌は、登美ヶ丘中学校区出身の音楽プロデューサーの方と共に体育館で全校児童が参加してレコーディングを行い、CDにすることが出来ました。地域のみなさんを学校に招待し、完成した歌も歌いながら「感謝の気持ちを伝える集会」（2月）も行うことが出来ました。



地域の方々と、子ども達が触れ合うことが増えることで、「子ども達が地域の中でしっかりと生活し、地域とのつながりを深める」という目標に近づいているという実感を学校みんなで持つことが出来るようになってきています。

今年度のまとめ

前年の活動を踏まえ積み重ねることで、子ども達の取り組みはさらに発展・充実し、地域の方々の心も動かし、取り組みの深まりが増してきています。ボランティアの方々の熱心な関りと、子ども達への温かい心配りのおかげで、子ども達は、ますます成長し、ふるさと鶴舞を思う気持ちも強くなっています。学校・家庭・地域が、お互いの役割や機能を十分理解し、連携・協働することで、これからも「確かなつながりの中で自ら考え未来を切り拓く子ども」の育成をめざしていきたいと考えています。

来年度に向けて

これからも、学校の年間教育カリキュラムとの関りを重視しながら、地域の方々と共に協働して活動を継続することで、「地域で子どもをはぐくみ子どもで地域がつながる」鶴舞を創りあげていきたいと考えています。共に歩んで下さっている保護者・地域・関係団体の皆様、今後共、宜しくお願いいたします。

めざす子ども像

幼小中・地域の確かなつながりの中で**自ら考え、未来を切り拓く子ども**

取組目標

～自ら学び、考え、行動するやさしくたくましい子どもの育成～

【今年度の取組紹介】**◆学習支援事業 「裁縫ボランティアさん」**

5年生は毎年10月に行われる野外活動で使うナップサックを家庭科の時間に作ることであります。限られた時間で作品を完成させるのに苦手な子どもたちもいるので毎年大変なのですが、今年は地域にお住いの裁縫上手な方たちにサポートを受け満足のいく作品を時間内に完成することができました。また、野外活動当日も全員ナップサックのひもやホックが外れる事なく使えることができました。

**◆読書推進事業「読み聞かせ」**

毎日朝休みと中休み、昼休みに図書室を開放していますが、いつもたくさんの子どもたちでにぎわっています。本好きな子が多い理由に地域のボランティアさんからの読み聞かせがあります。毎回、その時期ならではの内容など子どもたちの興味がわく作品を選んで下さるので、子どもたちはいつもこの時間を楽しみにしています。

**【今年度のまとめ】**

今年度は、学習支援事業に重点を置いて地域の方にご協力いただきました。子どもたちにとって地域の方に支えられていると実感している1年だと思います。また、昨年から充実した図書環境になり、益々読書活動が楽しくなったのではと感じています。今年も地域の方々のおかげで子どもたちは元気で健康な生活を送ることができました。

【来年度に向けて】

今後もたくさんの地域の方にご協力いただき、自分の地域を自慢でき、健康でたくましい子どもの育成につながればと考えております。

めざす子ども像

幼小中・地域の確かなつながりの中で自ら考え、未来を切り拓く子ども

取組目標

子どもたちの興味・関心を湧きたてる体験活動の実施

【地域とのつながり】

ゲストティーチャーを招いて、野菜や花を栽培・収穫を繰り返し体験させていただいたことで、昨年はタマネギ販売から地域のパン屋さんで園のタマネギを使ったパン「鶴舞オニオン」を商品化していただきました。さらに今年もパン屋さんからの提案で、子どもたちが園内でパンの販売を経験することができました。地域の方の協力を得て、今年度は栽培から商品化そして販売と広がり、キャリア教育につながる貴重な体験は、子どもたちの自己肯定感を高めることができました。



【3色の染め物に感動】

四季を通して草花であふれる園庭は、子どもたちの主体的な遊びを引き出してきました。草花に深くかわかることで、子どもたちの知識や技能、豊かな感性が育まれました。そんな中から一昨年度はマリーゴールドを、昨年度はアイを絞り染め体験しました。今年は「ベニバナに挑戦してみよう」と種から育ててみました。子どもたちはこれまでの年長児の姿から、「3種類の染め物をやってみたい」という思いが生まれ取り組むこととなりました。黄色いベニバナから紅色をおびた色に変化したときは「うわー！すごい！」と歓声が上がりました。3色の染め物は運動会の大旗になりました。



【それいゆさんとの交流】

「それいゆ学園前」より高齢者の方々にお越しいただき、園児が運動会でのダンスを披露したり、「もったいないばあさん音頭」を一緒に踊ったりして過ごしました。音頭の輪の中には車椅子の方も入ってくださり、子どもたちと視線を合わせ触れあって共に笑顔があふれました。園で栽培したコーンを使っただけのポップコーンも一緒にいただきました。高齢者の方は毎年楽しみに参加していただき、子どもたちも車椅子を押したり手をつないで案内したりなど、進んで触れ合う姿が見られるようになりました。



【今年度のまとめ】

取り組み紹介の他にも、地域の方が「弦楽器に親しもう」と大切な楽器を持参して音色を聴かせてくださったり、サッカーや英語も継続して体験させていただいたりしました。これまで積み上げてきた取り組みの中から、つながりが生まれ広がっていき、子どもたちにとっての興味・関心を引き出され、自ら学ぼうとする意欲や心情、態度がさらに育ってきました。

【来年度に向けて】

来年度から民間法人の運営となりますが、公私連携幼保連携型こども園として地域で決める学校予算事業が引き継がれます。今年度の教育目標も引き継がれますので、園で強化したい教育・保育内容や地域にサポートしてほしい方針を明らかにして更に豊かな体験活動につなげていただきたいと思います。